



ONE HEART
 Qu'est-ce que nous pouvons faire pour l'avenir?
 NEWSLETTER
 UNESCO
 ASSOCIATED
 SCHOOL
 & ESD
 VOL. 04



FAIR TRADE

フェアトレードとは「公平貿易」を意味します。発展途上国で作られた作物や製品を適正な価格で継続的に取引することで、生産者の生活を向上させることができるという仕組みです。フェアトレードとは単に貿易のためだけに途上国と関わるものではありません。「人の権利」を守ることを考えながら行う活動でもあります。フェアトレードは、1946年にアメリカのキリスト教系グループがプエルトリコの女性達が作った手芸品を購入したことから始まったと言われています。それから約70年が過ぎ、フェアトレードを支援する団体やお店がたくさんできました。そのため、誰もが商品を購入することで国際協力に貢献できるようになりました。

特進コースでは毎年文化祭でフェアトレードの紹介や商品の販売をしています。この活動を始めたとき、フェアトレードについてあまり詳しく知りませんでした。この活動ではまず、途上国の支援を行っているJICAという団体を訪れ、実際に海外赴任をしていた方の話を聞かせていただきました。その中で日本では考えられないような貧しい生活をしている人が世界にはたくさんいるということを知りました。

フェアトレード商品は通常のものより少し値段が高いこともありますが、それが途上国の人々の生活の支援になります。一人でも多くの人に世界の現状を知ってもらうために、これからも活動を続けていきます。



2GA 下福 峻太 加藤 亜季
photo: 安井 達哉

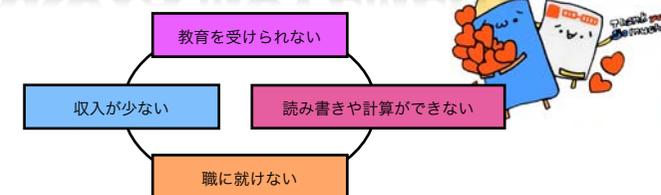
WORLD TERAKOYA MOVEMENT

世界寺子屋運動は、読み書きのできない人々へ寺子屋(学びの場)を普及させることで識字教育を進めることを目的としています。寺子屋運動は国際識字年(1990)に日本ユネスコ協会連盟が始めました。

書き損じはがきは1枚あたり50円ほどになります。それが鉛筆等となり、世界中の読み書きや計算ができない子ども達に送られます。



読み書きができない環境下では、必要な情報が得られないために、粉ミルクと農薬の表示を見分けられず赤ちゃんを死なせてしまうことさえあるのです。また、途上国では右の図のような負の連鎖が断ち切れない場合があります。



この活動を通して、私たちには当たり前の学校生活を「望み」としている子ども達が世界中にいることを知りました。この場所でできることが遠くの誰かの笑顔へとつながっているということを感じ、改めて世界は一つなのだと感じました。国際理解は双方向的でなければならぬと思います。私たちのそれぞれが、つながりを意識して継続的に活動していくことが必要だと実感しました。

1GG 梅村 美宇 小椋 志穂 齋藤 美侑
林 美有 森 優花

FAIR TRADE & WORLD TERAKOYA MOVEMENT

vol. 04 フェアトレードと世界寺子屋運動

ONE WORLD ONE HEART

私たちの身の回りには様々なものがあふれています。食物、住居、衣服…望めばたいいものは手に入ります。みなさんは毎日学校に来て、教育を受けています。そしてそれを当然だと思ってしまうのではないのでしょうか。しかし、世界中の全てがそうであるというわけではありません。

学校に通えなければどうなるのでしょうか。当然、文字を読むことも書くこともできません。現在、世界の成人の6人に1人は読み書きができないと言われています。読み書きができないから就きたい仕事にも就けず収入も安定しません。さらに、その子どもも同じ状況に陥ってしまいます。

また、私たちに身近なコーヒーやカカオ、コットンやお茶などといった製品の多くは発展途上国から輸入されています。もしこれを先進国が「アンフェア」な価格で取引をしたら途上国の人々の生活はどうなるのでしょうか。

このような世界的な問題に対して、本校では文化祭で16年前からフェアトレードに、2年前から世界寺子屋運動に取り組んでいます。

Think globally, act locally